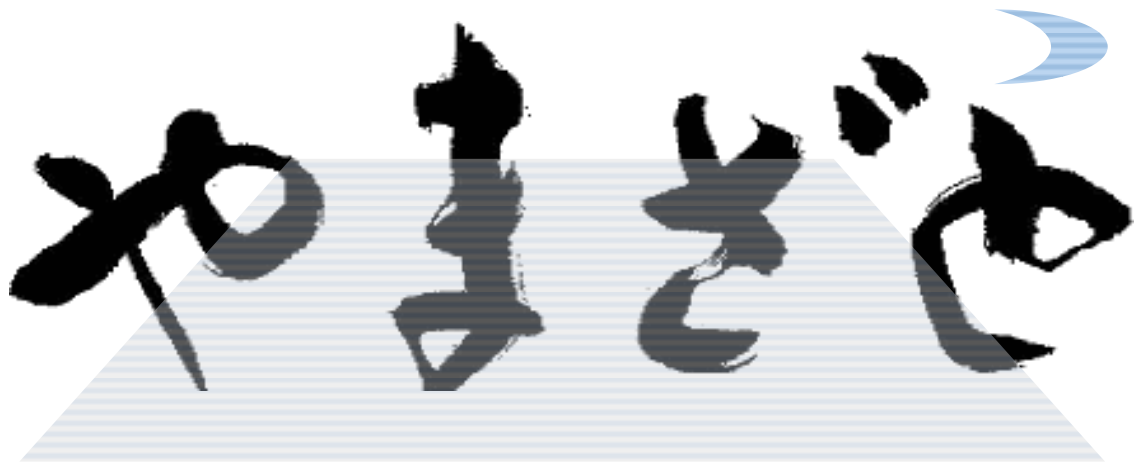




砂御前山からの白山



金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会報 vol. 36

目 次

			(頁)
【OB 会会長あいさつ】	22 期	黒崎敏男	1
【OB 会活動便り】			
東海支部報告	17 期	渡邊和文	2
セルリアンブルーの橋を渡りながら（附、近畿支部活動一覧）	16 期	川端俊朗	2
第 24 回野沢温泉スキー合宿 2021	11 期	加藤忠好	3
2021 年小屋作業	11 期	青柳健二	9
	22 期	黒崎敏男	11
【現役より】			
苦難と成長の一年	64 期	ベロワ マリヤ	12
【投稿のページ】			
花の旅	8 期	篠島益夫	14
近年の、外国での記憶から	11 期	長岡正利	18
回顧に暮れて・・	15 期	舟田節子	22
ふるさとの山・鈴鹿を遊ぶ	17 期	小島 敬	26
【会員のご意見】	5 期	金岩 孜	30
	18 期	井上茂良	30
【会計担当より】	23 期	小久保光将	31
【編集後記】	24 期	仲村正一	32

表紙の言葉 <砂御前山からの白山>

1960～1970 年代頃には白峰集落から白山への登山道の青柳新道とワングル道がありました。今はその一部が鳴谷山や砂御前山への道として使われています。左から四塚山、大汝峰、御前峰と連なっています。（撮影：11 月上旬、15 期上馬康生）

山に関する言葉の記憶

OB 会会長 22 期 黒崎 敏男

学生時代のことですが、当時は頻繁に山に関する本や雑誌を読んでおり、何を読んだのか今となっては不明ですが「登山は精神的な行為である」というフレーズをその部分のみが切り取られたように記憶しています。

もう一つは、自分が参加している山岳会の懇親会での偉い人の言葉ですが、共通の知人について「あの方変わってますよね。」と自分がしたコメントに対しての「当たり前だ、山なんか行く奴に変わっていない者なんかおらん。」という返事という言葉です。

いずれもわざわざ困難を自らに課し、危険を承知で利益にもならない行動をする人間に対する一つの見方を表していると感じ、今に記憶があります。

この年になると最低限の登山しかできなくなり、山への思い入れも少なくなっていますが、それでも山に惹かれるイメージが多少なりとも存在するのは、自分だけでなく、当 OB 会会員の皆様に若い頃あった共通の性質から来ているのではないかと思うところです。

そうはいっても体力気力の衰えは明白ですので、最近の山行では決して途中で諦めないよう自身を叱咤激励しながらだましだましの登山です。高三郎山もいつまで登れるかという感じですが、同じように考える会員におかれてはそろそろ最後の高三郎、山小屋訪問を計画して頂きますならば、当方としても最大限支援しますので、遠慮なくご連絡ください。

次回の春の小屋作業は来年 5 月前半を予定しますのでご検討ください。

前号でお知らせした部誌「Bergheim」や OB 会報「やまざと」等の大学図書館への寄贈又は OB 会での保存に関しましては、長岡さん(11 期)、舟田さん(15 期)、奥名さん(15 期)からご協力を賜り、必要な対応ができました。厚く御礼を申します。引き続き対応しますので、お手元の古い資料の寄贈のご希望がある方はぜひ会長あてご連絡ください。

また、前号お知らせした、本誌の在り方や山小屋の今後についてもいくつかご意見を頂戴しましたので今回紹介するとともに、次期総会での何らかの提案とすることを目途として内容を整理して行きたいと思います。これに関してもぜひご意見をお寄せください。

私自身もできるだけ多くの会員の皆様と直にお話しする機会をもつよう努力しますので、お会いできた暁には忌憚のないご意見を承りたく存じます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

東海支部 中野ミカン山訪問記

17期 渡邊 和文

愛知県の知多半島先端近く的美浜町にお住いで、自宅周囲の畑や近くの丘陵地で柑橘、野菜、花などを栽培されている中野謙一さん(8期)から甘夏の摘果作業にお誘いいただき訪問しました。

2021年4月30日(金)、メンバー(野村(12期)、柴田茂樹(13期)柴田訓子(13期)、川端(16期))はそれぞれの車で野間大坊の駐車場に集合。ここは源氏の頭領 源義朝終焉の地。中野さんの案内で義朝が長田一族に謀殺された湯殿跡のある法山寺、義朝家臣と長田一族が戦った乱れ橋、戦いの死者を埋めた千人塚やはりつけの松がある密蔵院、織田信長の三男信孝が幽閉され自害した安養院、白河天皇の勅願寺野間大坊(大御堂寺)などを散策。車で上野間漁港に向かい伊勢湾を180度眺望。そして、中野ミカン山に到着。たわわに実った甘夏の摘果作業を体験。昼食は各自持参の弁当に加え、特別メニューとして柴田夫妻に現地調理の豚汁をふるまっていただきました。海風に吹かれてのどかな中野ミカン山でのひと時を満喫。持ち帰り自由の甘夏と八朔を一杯いただいてミカン山を後にしました。近くの海老せんべい工場直売店に寄って試食や買い物をしてそれぞれの帰路につきました。

なお、来年の柑橘類は裏年で収穫が期待できないとのことで、次回は再来年(2023年)まで待つてとのことです。コロナ禍も治まって皆さんと訪問できることを願っています。



「観音坂いちえ」訪問記

16期 川端 俊朗

昨年来の新型コロナウイルス蔓延に伴い、東海支部の活動も滞っております。今更ながらに、支部の会員の皆さんと、山歩きや飲み会を当たり前のよう楽しめていたことが、ありがたいことだったと感謝いたします。

両親が亡くなり、金沢への帰省もしばらくご無沙汰していたので、八月に家内と二人でお盆の墓参りに出かけました。墓参当日は長雨の最中で、市内観光も出来ず、ふと、奥名さんからのメールを思い出し、黒崎会長のお店「観音坂いちえ」を訪ねてみました。15期の船田さんから、ベルクハイムはじめお手持ちの資料を寄贈いただき、同店に保管中とのことでしたので、是非とも見に行きたいと思いました。

お城の大手堀から昔のトレーニングロードを卯辰山に向かい、天神橋を越えて左の小道を東の茶屋に向かいます。途中から長谷山観音院に向かう石段を登ります。幸い黒崎マスターもいらっしゃり、おいしいお茶をいただきながら、雨の浅野川を眺め、ゆったりとしたひと時を過ごすことが出来ました。驚いたのは、小生がベルクハイム編集長を仰せつかった年度に作成したガリ版刷りの部誌に巡り合えたことでした。印刷部数も少なく、私の手元にも残っていません。ページをめくっていると、当時の活動の様子が思い出され、懐かしく、また編集部員たちの「くせ字」にも、それぞれの部員の情熱を感じることが出来ました。家内はマスター特製のココアオーレの美味しさに感動しておりました。

OBの皆さん、金沢にいらっしゃる方々はもちろん、遠方にお住まいの方も来沢の折は是非とも「観音坂いちえ」をお訪ねください。特に奥様をお連れすれば亭主の株が上がる事請け合いですよ。(お立ち寄りの際はHPを参照してください)

(写真はHPより借用)



セルリアンブローの橋を渡りながら
(附、近畿支部活動一覽)

11 期 加藤忠好

「和歌山の水管橋が落ちたわよ・・・。」

10月3日、近畿支部10月Pwの案内HPを作成している時、TVを見ていた家内が騒いでいる。直前まで『水管橋』の語彙すら知らなかったのに、先日渡ってきたばかりだからでもある。

近畿支部の活動も、16期井上さんが宝塚の大峰山Pwを企画してくれたのに、新型コロナウイルスの流行で取り止め、以降活動していない。以下略称コロナは、これまで何波かやって来た。オリンピックの開催に合わせたのか、これまでにない大きな第5波で国民の怒りは大きくなり、菅政権が続投をあきらめたほどである。以降不思議と減少し、10月1日主要都市に出されていた非常事態宣言が解除された。解除の理由はよくわからないがどうやら経済的な理由かららしい。

この解除は、津波の引き潮にも似ている。迷ったが、近畿支部活動のチャンスであることは事実だ。人があまりなくて、楽しめる場所。京阪神の外となると奈良か滋賀か播磨。要件は、①昼食時に心地良い広場があること、②途中、楽しめる要素が多いこと、③下見が容易であること。

で、迷いにまよい無名の升田山にした。

下見当日、JR日岡駅で下車。反対方向の電車から降りてきた乗客は高村さんだけだった。

日岡駅のトイレ情報が入手できなかったので、それを確認。ン～移動型トイレ？ならば日岡神社の方が良さそう。予想していた通り、参集殿のはきれいだ。賽銭を入れ今日の無事を祈った。

ここが本番の出発点。集落を抜け、加古川の土手に立った。ここから対岸へ渡るには上流、下流ともに約2 km離れた橋で迂回するしかない。眼前にはセルリアンブルーの鉄橋がある。セルリアンブルーというのは、油絵の絵具で知った色だ。そして地理院の地形図は、この橋を『水管橋』と注記している。これまでこの橋を何度も見てきたが疑うことなく水だけを通す施設だと思い込んでいた。しかし、調べると人と自転車はOKとのこと。このことは水管橋としては全国的にも珍しいだろう。このような立派な橋がありながら水だけ

けではもったいない。特に、近くに橋がないこの場所についてはなおさらである。橋上の歩道幅はそう広くはない。橋上に立てば両眼下に清き流れ、これから登る升田山、播磨富士と呼ばれる高御位山も眺められる。橋の長さは426m、まるで遊園地に居るかのよう楽しい。



加古川に架かる水管橋

加古川、この大河は、あることで兵庫県の数ある大河の中でも特異な存在である。橋を渡りながら、ある先輩を思い出していた。

小川さんの企画はいつも、大分水界に特化したユニークなものだった。大分水界というのは、早い話がそこでオシッコをすると、日本海と太平洋に泣き別れするという場所なのだ。

「檜の穂先で・・・す～れば、高瀬・梓に泣き別れ」という替え歌もあるが、高瀬川も梓川もそう遠くない安曇野で合流し、結局は犀川、千曲川、信濃川と名を変え、いずれも日本海に行き着く。だから、日本海と太平洋に分かれる大分水界の方がはるかにスケールが大きいのだ。

「谷中分水界」。普通、分水界は稜線にあるが、稜線から小平野状の谷に下りているものがある。そんな谷でも、水は通常それぞれの溝を通り海に流れるが、大雨などで水が溝から溢れると、どちらの方にも流れるという現象が現われる。



谷中分水界の好例（田松川）

図は大分水界ではないが、誰もが納得できる谷中分水界の好例である。地形図では、緩やかな川の流れは矢印で示されるが、一本の川に両方の矢印があるのは珍しい。これは明治初期に、同じ谷中の別の方向に流れる2本の川があったが、運輸のために一本の運河としたためで、田中、松島両氏の偉業を称えて、田松川と命名された。だが、下流の武庫川も加古川も同じ瀬戸内海に注ぐ川同士、単なる谷中分水界では話が小さい。

別の場所、加古川の上流は日本海に注ぐ由良川水系を相手とし、谷中大分水界を3ヶ所も持っているのだ。栗柄峠、鼓峠、そして石生である。

石生なんかは集落の中に大分水界があるので峠の名すらない。元来、峠であるはずなのに、ここでは鉄路もほぼ平坦に敷設されている。本州のほぼ中央部の大分水界であるにも拘らず、その標高は100mに満たないことにも驚かされる。



背後の尾根が大分水界（2008年4月）

その3ヶ所で、写真前方の二人は小川さんから谷中大分水界の説明を熱心に聞いていた。いま、セルリアンブルーの橋を渡りながら、私同様、その時のことも思い出しているに相違ない。

谷中大分水界は、珍しいがオマケみたいなもの

だと思っている。小川さんの意図は、大分水界の山に案内し、壮大な話をすることだったろう。

- ・御嶽・小金ヶ嶽（2004）
- ・三尾山（2005、2006）
- ・篠見四十八滝（2007）
- ・向山（2008）
- ・五台山（2009）
- ・栗鹿山（2010）
- ・五大山（2011～2013）。

秋風と 생각이渡るセルリアン橋

あっ、まだ橋の上だ。その後の下見の話を続けよう。橋を渡ってから、神代の時代には天に続いていた「八十の岩橋」をよじ登り、升田山に登った。十分に広い頂上と展望、平荘湖古墳群上の山道の状態などを確かめ、次に綺麗なトイレを探し求め歩いた。本番実施のハード的条件はOKだ。

蛇足ながら、解散予定の加古川駅近くの店を覗くと、ほぼ人がいない。名物『カツメシ』の誘惑にどう対処したかは想像に任せよう。久しぶりに歩いた今日は、実に楽しい一日だった。

今年は、近畿支部発足から18年目である。コロナで、何の活動もできなかったが、これまでの活動を一覧表にまとめた。各Pw参加者もすべて調査し把握したが、紙面が膨大になるので、ここでは割愛させていただく。一覧表を眺めていると、それぞれの企画者のこだわり、はたまたPwでのさまざまな出来事が甦ってくる。あのPwはそんなに昔だったのか・・・とも。懐かしい。

<註：表のPw名は当初のものではなく事務局で内容を加味し改訂しました。ご了承ください。>

2004年 近畿支部発足以降の近畿支部の活動一覧表

<女性には英小文字を添えた>

2003	(H15)			
	9/13～14（日）	KUWV45 周年記念総会		開催地：白峰
2004	(H16)			
	1/24（土）	摩耶山の集い	(支部発足会)	11名
	4/10（土）	修験道の播磨・鎌倉山Pw	(企画：加藤)	13名
	5/1～3（月）	BHと高三郎Pw	(企画：金沢OB会)	18名
	5/22（土）	花の横山岳Pw	(企画：篠島)	9名
	6/27（日）	山田道～20クロスPw	(企画：宇野)	11名
	7/24（土）	雷雨もあり氷ノ山Pw	(企画：篠島)	9名
	9/25～26（日）	サンマPin大久保雑草園	(企画：加藤)	14名
	11/6（土）	雪彦山Pw	(企画：篠島)	8名
	11/27（土）	大分水嶺・御嶽と小金ヶ嶽Pw	(企画：小川)	7名
	12/12（日）	生駒山&香港楼Pw	(企画：赤地)	15名

2005年1月～2008年1月の活動

2005	(H17)		
1/29 (土)	六甲山芦屋～有馬横断 P w	(企画：篠島)	9 名
2/26 (土)	須磨アルプス P w	(企画：篠島)	8 名
3/12 (土)	厳冬期に登る門柳の白山 P w	(企画：加藤)	11 名
4/2～3 (日)	霊仙山と福寿草 P w	(企画：篠島)	13 名
4/29～31 (日)	山陰の名峰、大山 P w	(企画：篠島)	9 名
6/18 (土)	岩と壁・剣尾山 P w	(企画：藤井)	10 名
7/2～3 (日)	近畿の最高峰・弥山 P w	(企画：島林)	中止 (天候)
7/30～31 (日)	伊吹山・早朝登山 P w	(企画：宇野)	11 名
10/1～2 (日)	サンマ P 前週祭 in 雑草園	(企画：加藤)	9 名
10/2 (日)	六甲山頂・白山社 P w	(アフターサンマ P)	6 名
10/8～9 (日)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	16 名
10/9 (日)	須磨アルプス P w	(アフターサンマ P)	9 名
10/22 (土)	ススキの倶留尊山 P w	(企画：篠島)	11 名
11/26 (土)	七種滝と七種山 P w	(企画：宇野)	9 名
12/10 (土)	大分水嶺・三尾山 P w	(企画：小川)	2 名
2006	(H18)		
1/7 (土)	摂津峡白水館 P w	(企画：赤地)	13 名
2/11 (土)	樹氷の高見山 P w	(企画：篠島)	9 名
3/25 (土)	箕面山系ぐるり一周 P w	(企画：金岩)	11 名
4/22 (土)	再・三尾山 P w	(企画：小川)	7 名
5/3～5 (金)	三瓶山 大山 P w	(企画：篠島)	8 名
6/17 (土)	最低山・大阪天保山 P w	(企画：藤井)	16 名
7/15～16 (日)	再・大峰・弥山 P w	(企画：島林)	10 名
9/23 (土)	丹波の霊峰・弥仙山 P w	(企画：野村)	12 名
10/14～15 (日)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	20 名
10/15 (日)	加西の岩山・笠松山 P w	(アフターサンマ P)	13 名
11/18 (土)	秋の高原歩き・段ヶ峰 P w	(企画：篠島)	13 名
12/16 (土)	白髪岳・松尾山 P w	(企画：篠島)	9 名
2007	(H19)		
1/13 (土)	愛宕山有馬温泉新年会 P w	(企画：赤地)	11 名
2/4 (日)	諭鶴羽山での寿神楽 P w	(企画：金井)	13 名
3/10 (土)	蛇谷ガ峰と白山遠望 P w	(企画：藤井)	14 名
4/14 (土)	大分水嶺と笹見四十八滝 P w	(企画：小川)	10 名
5/3～5 (土)	あけぼのつつじの石鎚山 P w	(企画：篠島)	9 名
6/16 (土)	天下台山と笹百合 P w	(企画：加藤)	11 名
9/8 (土)	京・将軍塚から清水寺 P w	(企画：金岩)	15 名
10/6～7 (日)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	20 名
10/7 (日)	旧山陽道を歩く P w	(アフターサンマ P)	10 名
11/10 (土)	徳川道六甲山岳部 P w	(企画：篠島)	8 名
12/15 (土)	播磨富士・桶居山 P w	(企画：加藤)	10 名
2008	(H20)		
1/12 (土)	西宮酒蔵めぐり P w	(企画：篠島)	12 名

2008年2月～2011年12月の活動

2/16 (土)	歴史の笠置山と甕穴 P w	(企画：加藤)	14 名
3/22 (土)	北淡路：海と花めぐり P w	(企画：金井)	9 名
4/19 (土)	丹波・向山ヒカゲツツジ P w	(企画：小川、加藤)	9 名
5/3～5 (月)	四国・剣山、赤石山 P w	(企画：篠島)	7 名
6/21～22 (日)	比叡山と小川ロッジ P w	(企画：小川)	8 名
7/12～13 (日)	丹後由良の山と海 P w	(企画：野村)	10 名
8/23 (土)	赤地's Last Stage in Jp&羊羹 P w	(企画：藤井)	14 名
10/11～12 (日)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	28 名
10/12 (日)	西海酒造見学 P w	(アフターサンマ P)	26 名
11/16 (日)	紅葉の保津峡～嵯峨野 P w	(企画：伊豫)	9 名
12/13 (土)	奥高座と六甲前衛の山 P w	(企画：伊豫)	13 名
2009 (H21)			
2/01 (日)	奈良・春日山原生林 P w	(企画：藤井)	21 名
2/21 (土)	奈良・二上山 P w	(企画：篠島)	13 名
3/7 (土)	花の散策、丹波・金山 P w	(企画：伊豫)	12 名
4/11 (土)	展望の湖南アルプス P w	(企画：宇野)	16 名
5/16～17 (日)	鈴鹿山系の花 P w	(企画：森川・篠島)	11 名
6/6～7 (日)	赤坂山と小川ロッジ P w	(企画：小川)	5 名
7/11～12 (日)	丹後由良ゆらゆら P w	(企画：野村、高水間 t)	17 名
10/3～4 (日)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	24 名
11/14 (土)	分水嶺を行く・五台山 P w	(企画：小川)	14 名
12/19 (土)	観音山・山鍋 P w	(企画：伊豫)	12 名
2010 (H22)			
1/30 (土)	行者山と宝塚歴史散歩 P w	(企画：篠島)	14 名
2/14 (日)	旧摩耶道と春節 P w	(企画：藤井)	17 名
3/13 (土)	滋賀・笹間ヶ岳 P w	(企画：伊豫)	14 名
4/17 (土)	六甲の十字峡・大藪谷 P w	(企画：加藤)	13 名
5/22 (土)	春の花を訪ねる金剛山 P w	(企画：畔山)	16 名
6/26 (土)	百丈岩→廃線跡に変更 P w	(企画：篠島)	12 名
10/2 (土)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	20 名
11/13 (土)	分水嶺を行く・栗鹿山 P w	(企画：小川)	16 名
12/23 (祝)	甲山イブイブ P w	(企画：伊豫)	17 名
2011 (H23)			
1/22 (土)	虚空蔵山と丹波焼き P w	(企画：藤井)	17 名
2/26 (土)	中山梅林・清荒神 P w	(企画：藤井)	13 名
3/26 (土)	大岩岳さまよい P w	(企画：加藤)	8 名
4/24 (日)	千ヶ峰 P w	(企画：篠島)	中止 (交通不能)
5/14 (土)	琵琶湖蓬莱山・小女郎ヶ池 P w	(企画：藤井)	15 名
6/12 (日)	再・涼風の百丈岩・静ノ池 P w	(企画：篠島)	7 名
6/25 (土)	愛宕山 P w	(企画：伊豫)	中止 (天候)
10/1 (土)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	19 名
11/19 (土)	大分水嶺を歩く・五大山 P w	(企画：小川)	中止 (天候)
11/19 (土)	分水嶺を歩かない五大山麓 P w	(企画：小川)	11 名
12/17 (土)	別所奥山と山鍋 P w	(企画：宇野、加藤)	20 名

2012年1月～2016年3月の活動

2012	(H24)		
1/14 (土)	六甲前衛の山さまよい P w	(企画：伊豫)	14 名
2/25 (土)	京都・嵐山霧隠れ P w	(企画：藤井)	16 名
3/31 (土)	近江富士・三上山 P w	(企画：藤井)	中止 (天候)
4/21 (土)	ボンボン山 P w	(企画：三宅)	12 名
5/19 (土)	再・三上山 P w	(企画：藤井)	15 名
6/16 (土)	六甲・シュラインロード P w	(企画：加藤)	中止 (天候)
9/29 (土)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	24 名
10/27 (土)	六甲・油コブシと唐櫃の道 P w	(企画：加藤)	20 名
11/17 (土)	再・大分水嶺・五大山 P w	(企画：小川)	中止 (天候)
12/22 (土)	能勢妙見山と山鍋 P w	(企画：宇野、三宅)	中止 (天候)
2013	(H25)		
1/19 (土)	新春の交野山 P w	(企画：島林)	17 名
2/23 (土)	播磨アルプス・高御位山 P w	(企画：加藤)	13 名
3/23 (土)	湖南アルプス・堂山 P w	(企画：伊豫、加藤)	11 名
4/27 (土)	能勢の妙見山 P w	(企画：三宅)	17 名
5/18 (土)	比良山・冷やしパイン P w	(企画：伊豫)	10 名
6/29 (土)	柳生街道と春日山原生林 P w	(企画：赤地 k、赤地)	16 名
10/19～20 (日)	サンマ P in 大久保雑草園	(企画：加藤)	19 名
11/16 (土)	再々・大分水嶺・五大山 P w	(企画：小川)	15 名
12/22 (日)	甲山公園・山鍋 P w	(企画：藤井)	22 名
2014	(H26)		
1/25 (土)	生駒山と香港楼 P w	(企画：赤地、赤地 k)	14 名
2/22 (土)	近江・田中山と銅鑼見学 P w	(企画：伊豫、加藤)	9 名
3/15 (土)	東山・伏見～清水山 P w	(企画：三宅)	15 名
4/5 (土)	高槻・太閤道 P w	(企画：島林)	中止 (天候)
5/17 (土)	琵琶湖沖島・尾山 P w	(企画：藤井)	16 名
6/14 (土)	六甲姫・山上歴史散策 P w	(企画：加藤)	14 名
10/19～20 (月)	サンマ P in いよやかの郷	(企画：畔山)	19 名
11/30 (日)	京都・清滝川紅葉狩り P w	(企画：伊豫)	12 名
12/23 (祝)	岡山・和気アルプス P w	(企画：加藤)	11 名
2015	(H27)		
1/17 (土)	高安・信貴山 P w	(企画：伊豫)	16 名
2/14 (土)	三輪山たすき掛け登拝 P w	(企画：藤井)	15 名
3/14 (土)	高取城・土佐城下町 P w	(企画：金岩)	16 名
4/18 (土)	赤目四十八滝 P w	(企画：藤井)	11 名
5/16 (土)	大原～鞍馬ほぼ平坦 P w	(企画：三宅)	16 名
6/6 (土)	高野奥の院の三山 P w	(企画：藤井)	11 名
10/23～24 (土)	サンマ P in いよやかの郷	(企画：畔山)	19 名
11/21 (土)	紅葉の書写山 P w	(企画：藤井)	15 名
12/13 (日)	小塩山紅葉狩り P w	(企画：島林)	11 名
2016	(H28)		
1/30 (土)	山城・鷺峰山 P w	(企画：加藤)	中止 (天候)
2/13 (土)	鷺峰山・再挑戦 P w	(企画：加藤)	中止 (天候)
3/12 (土)	滋賀・岩の太郎坊宮 P w	(企画：藤井)	12 名

2016年4月～2021年10月の活動

	4/9 (土)	天下分け目の天王山 P w	(企画：三宅)	19 名
	5/14 (土)	映画撮影地・座頭谷 P w	(企画：加藤)	10 名
	6/4 (土)	六甲高山植物園 P w	(企画：藤井)	15 名
	9/24 (土)	摩耶山・シェール道 P w	(企画：加藤)	13 名
	11/7～8 (火)	サンマ P in 近江今津	(企画：加藤)	21 名
	12/17 (土)	琵琶湖疎水・前編 P w	(企画：伊豫、加藤)	12 名
2017	(H29)			
	1/21 (土)	琵琶湖疎水・後編 P w	(企画：加藤)	11 名
	2/25 (土)	義経も歩いた鶴越 P w	(企画：黒崎)	16 名
	3/18 (土)	六石山と宇治・天ヶ瀬 P w	(企画：三宅)	13 名
	4/15 (土)	法隆寺～矢田丘陵花見 P w	(企画：藤井)	9 名
	5/15 (月)	大和三山 (耳成・畝傍) P w	(企画：金岩)	15 名
	6/19 (月)	生駒・鳴川峠 P w	(企画：赤地)	13 名
	10/11 (水)	大和三山 (香久山) P w	(企画：金岩)	8 名
	10/29～30 (月)	小浜花街・三丁目ながた P w	サンマ P 前泊企画	7 名
	10/30～31 (火)	サンマ P in 近江今津	(企画：三宅、間所)	中止 (台風被害)
	11/21 (火)	播磨富士稜線 P w	(企画：加藤)	8 名
	12/15 (金)	京都・御土居 P w	(企画：加藤)	12 名
2018	(H30)			
	1/27 (土)	河内飯盛山・小楠公 P w	(企画：藤井)	13 名
	2/15 (木)	再々・鷲峰山と茶畑 P w	(企画：加藤)	13 名
	3/31 (土)	竜王山・摂津峡花盛り P w	(企画：三宅)	14 名
	4/12 (木)	六甲・岩梯子・花盛り P w	(企画：宇野)	9 名
	5/1 (水)	六甲・ハンカチノキ P w	(企画：加藤)	11 名
	6/11 (月)	生駒の瀑布と紫陽花 P w	(企画：赤地)	8 名
	10/15～16 (火)	サンマ P in 近江今津	(企画：三宅、間所)	16 名
	11/14 (水)	京都・清滝川の紅葉 P w	(企画：伊豫)	14 名
	12/13 (木)	龍野・山と城下町 P w	(企画：伊豫、加藤)	13 名
2019	(H31)			
	1/31 (木)	京都・大内山 P w	(企画：加藤)	延期 (天候)
	2/1 (金)	再・大内山・八十八ヶ所 P w	(企画：加藤)	16 名
	3/14 (木)	中世が残る泉州・雨山 P w	(企画：三宅)	10 名
	4/25 (木)	金勝アルプス・天狗岩 P w	(企画：宇野)	中止 (天候)
(R 元)	5/8 (水)	再・金勝アルプス・天狗岩 P w	(企画：宇野)	13 名
	6/3 (月)	清和源氏ゆかりの地巡り P w	(企画：金岩)	8 名
	10/29～30 (水)	サンマ P in 近江今津	(企画：加藤、金井、三宅、間所)	14 名
	11/21 (木)	大塩・のじぎく P w	(企画：加藤)	14 名
	12/13 (金)	京都・松尾山唐櫃越 P w	(企画：三宅)	17 名
2020	(R2)			
	1/22 (水)	六甲・観音山と甕岩 P w	(企画：加藤)	11 名
	2/13 (木)	京都修学院・瓜生山 P w	(企画：伊豫、加藤)	16 名
	3/26 (木)	宝塚・大峰山 P w	(企画：井上)	中止 (コロナ)
2021	(R3)			
	10/21 (木)	加古川・平荘湖 P w	(企画：加藤、高村 c、加藤 s)	

(本番山行きは、原稿〆切日のあとに実施されるので、報告は次回に。)

11期 青柳 健二

・実施日 2021年2月5日(金)～7日(日)

・参加者 (11期) 青柳 ・ (22期) 黒崎
(26期) 畠山 ・ 同奥様 4名

今年のスキー合宿は、新型コロナウイルスにより緊急事態宣言が発令されている中での開催となりました。ちなみに、スキー合宿の開催案内を正式に出した12月29日は、東京の新規感染者数は856人、私の住む埼玉県は300人であり、まさに感染爆発が起こりつつある時期でした。

それでもスキー愛が溢れる私としては、何とかスキー合宿を実施したいと、12月13日に前年の参加者にむけスキー合宿への参加意思を確認するアンケートを取りました。「今年は雪の降り出しが早く、スキー場は12月12日にオープンしている。23回も綿々と続いて来た伝統行事である。オーストラリア人が来ない宿は蜜にならず感染リスクは少ない。ゲレンデも比較的空いていて滑り易いと思われる」等をアピール。

結果は、佐藤さん・野村さん・上馬さん・片田さん・井上さん・堤さんが、感染リスクを取ってまで参加できないとの事でした。雪国に住む皆さんは地元のスキー場で滑れるからの感もあり、無理強い出来ませんでした。

もう少し参加者を増やせないかと、12月末にスキー大好き人間たちに重ねて参加の案内を出しましたが、山中さん・Y野村さん・舟田さんはスキーを引退の様子、山西さんは医師である身で参加出来ないとのことでした。コロナ禍でスキー客が減っている宿やスキー場を応援したいとの思いもあり、上記4名での実施となりました。

・2月5日(金) 晴れ

朝7時半前に自宅を出て、大宮駅9時9分発の上信越新幹線はくたか555号に乗り10時33分飯山駅着。乗客は少なく一人で座席3席を占有。その昔自家用車で来た時には暗い時刻に出掛けしたが、新幹線はさすがに速いものである。

野沢温泉行のバスに乗ると、黒崎さんが乗り込んで来た。11時10分には中尾バス停に着き、宿“ふるさと”に入る。12時にはスキーに出発。スキーレンタルの手配がある黒崎さんを置いて、上に登る。リフト券は2日券(7700円也)とした。

新長坂ゴンドラで一気にやまびこ駅へ。10人乗りのゴンドラを4人乗りに制限(感染予防策)中間駅が無くなり早い。新やまびこ駅にレストランが出来ていると思ったが、そうではなく少し下ってやまびこレストハウスへ。12時半となり、昼食とする。ビーフカレー(1150円也)。黒崎さん合流。

13時10分にスキー開始。毛無山まで一気に登って、やまびこAコースを滑る。青い空に白く輝く樹氷が美しい。3回滑って喫茶ダンテで休む。ソフトクリームを食べたいと思ったが、店員はおらず残念なり。仕方がないので自販機でジュースを買い喉を潤した。



(2.5 毛無山新ゴンドラ前)

休んだ後は、やまびこAコースを2回滑り、やまびこDコースを2回滑るとさすがに疲れたのでレストハウスに入ろうとすると、15時半なのに既にクローズしていた。仕方がないのでスカイラインを滑り降りスキーを終えた。

今シーズンの初滑りであり、スキーの調子は今一歩であったが、今年もスキーが出来たことが嬉しかった。白く輝く樹々の雪が美しく、マスクをしてのスキーではあっても、滑る喜びに満たされた1日であった。

宿ふるさとでは夕食は我々2名のみ。それでも何時も通りの美味しい料理で疲れを癒した。

食後は部屋で黒崎さんと歓談。私が61歳の時に登ったヒマラヤトレッキング・ゴキョピーク登頂の映像を披露。またバードウォッチングで撮りためた野鳥写真を披露した。

・2月6日（土）快晴

黒崎さんは、土日は運営している“観音坂いちえ”の仕事があるので、早めに朝食を食べて7時過ぎのバスで帰宅された。

9時過ぎには畠山夫妻が来館。奥様が宿泊することになり、その手続きをしてスキーに出発。長坂ゴンドラで毛無山に登り、やまびこAコースを3回滑り、例によってダンテで休んで、やまびこAコースを2回滑って12時前に昼食とする。（チャーシューメン、1050円也）



（2.6 毛無山山頂）

12時半となり食堂が混んで来たのでスキーに出かける。やまびこAコース3回、やまびこDコースを2回滑って、やまびこEコースからスカイラインコースで宿に戻る。快晴の1日で気持ち良く滑れたが、さすがに足腰にガタがきて、スカイラインでは2回転倒。それでも怪我も無く滑り降りられたのでホットした。15時半には宿に戻り、名物の甘酒を飲んで一息ついた。この時が何とも言えない満足感に浸る時間である。

ストーブ横で畠山夫妻としばし歓談。畠山さんの山スキーは、夜3時頃には家を出て、ヘッドランプを付けて山に登り、夜明け頃には山頂に立って滑り降りスタイル。雪崩を避けるための最善の策であり、昼前には自宅に戻るとの事であった。本物のスキーヤーだと感服した。

畠山さんは16時過ぎに帰宅された。

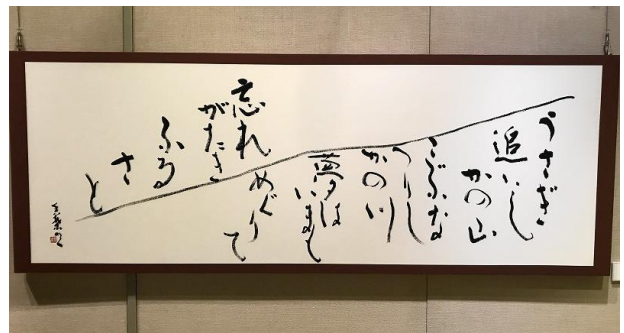
畠山さんの奥様と2人で夕食を取る。この日は、我々の他には家族連れが5組で、団体さんの宿泊は無かった。スキー場でも若者達で結構混んではいたが、外人さんが少なくいつもとは違う野沢温泉であった。疲れが溜まったのか、9時過ぎには早々と床についた。

・2月7日（日）曇り、時々小雨

好天の中を2日間タププリ滑ったので、この日は野沢の温泉街を散歩することにする。朝食をユックリ食べて宅急便の用意をし、9時半過ぎに宿を出た。畠山さんの奥様は、中尾の湯に入浴したあと、長野に出て東山魁夷美術館を観覧し善光寺に参拝するとのことでした。

中尾の十王堂で閻魔様などの像を拝んでから、温泉街を大湯方面に歩を進める。

「おぼろ月夜の館」に入ると、高野辰之展を開催していた。1階の常設展と2階で『高野辰之の世界、その巨歩と業績』展を観覧する。



高野辰之は、尋常小学校唱歌の多くを作詞している。『故郷』『もみじ』『春がきた』『朧月夜』など。また松本商業高等学校校歌など100校近くの校歌も作曲しているのには驚いた。だが、業績は国文学者としても著しく、『国文学史』『日本歌謡史』『日本演劇史』などの著作がある。信州中野の生まれで野沢温泉村で没したが、信州人の真面目さと努力家でもある様を知り感服した。

大湯から雪深き湯澤神社を参拝すると、お昼になり中央ターミナル近くの“庄平そば”で昼食とする。天ざる蕎麦と生ビール、美味い！

小雨が降る空模様で、予定より早い13時過ぎのバスで帰途についた。

参加者が少なく最後は街歩きとなったが、野沢温泉の魅力を見つけたスキー合宿であった。

【日程】

①春 2021 年 5 月 7 日 (金)

②秋 2021 年 9 月 29 日 (水)

【参加者】

■OB

春 大島良治 (13 期)、坂尻忠秀 (15 期)

久富象二 (20 期)、黒崎敏男 (22 期)

秋 坂尻忠秀 (15 期)、奥名正啓 (15 期)

久富象二 (20 期)、黒崎敏男 (22 期)

平田和彦 (金沢市役所スポーツ振興課)

大竹正市 (元「れのん」マスター)

■現役 参加なし

【1】相変わらず険しいアプローチ

冬の積雪の影響からか、高桑碑のある場所は上部からの大規模な土砂崩れによって幅 30m 高さ 3m 程度が岩石で埋まっている状態。かろうじて高桑碑は難を免れたが、隣の元住民の方の顕彰碑は直撃を受けて大きく傾き、一部損壊していた。

例によって、つり橋手前の 500m くらいの間は足元が悪く、草に隠れて見えないが数十m下まで切れ落ちた場所もあり慎重に歩行する。

難所のへつりは水量計の手前までもがけ状になってしまっており、秋は河原を歩こうとしたが滑って危険だったため道に戻った。丸太が渡されているへつりについては現在も有志によって維持がなされ、慎重に通過すればこれまでどおり何とか渡ることはできるが、天候等によっては丸太もひどく滑り、荷物が重い場合は避けた方が無難と思われる。流れの向きはやや変化してきた。

片道でダムから 2 時間 30 分を要するが、これ以上早く歩行することは困難である。



【2】小屋の状態

周囲はいつもどおり草ぼうぼうではあったが、外部内部とも特に目に付く異常はなく、今のところ安全性に問題はないと見られた。屋根の腐食は進んでおり、塗り替えが必要な時期か。また、ホースに複数亀裂があるため補修が必要。床板も以前ほど腐朽は進行しておらず快適に過ごせる。

【3】河原の草刈り

近年、川原で小屋掛けをして過ごしておられた方々がまったく入山していないため、ブッシュがひどく、へつり部分から小屋までは毎回改めて草刈りを行う必要がある。

【4】帰路

春はへつりを利用、秋はう回路の尾根越えの道を行ったが、それぞれそれなりにしんどく、尾根越えの道については引き続き草刈り、目印などのメンテを行う必要はある。

【5】来年春に向けて

小屋については仮に行うとしても壁の補修や屋根の塗り直し、ホース修理程度を実施すればよいとみられる。

高三郎登山道については、秋に登山口まで偵察したが、金山谷までは特に問題はないものの、谷に渡してあった丸太とロープが使用不能になっているため、増水期は通過が難しいかもしれない。

また、残雪期を中心に多少の登山者が入山している模様で、その記録によると笹が復活してわかりづらくなっている個所があるようなので、希望者があり、可能であれば中間部の草刈りを実施できればと考える。ただし、2 泊を要する可能性があるので事前によく検討してみたい。

次回は 5 月連休明けを予定しており、現役の参加もあり得、久しぶりに賑やかになればうれしいところです。参加可能な方はご計画方、よろしくお願いします。



現役より 苦難と成長の一年

64 期 ベロワ マリヤ

授業形態や人々の日常生活が大きく変わり、コロナ禍二度目の夏が終わりを迎えようとしています。昨年に引き続き、ワンダーフォーゲル部の活動は決して楽なものではなく、部長として思案に暮れる日々が続きました。テントや寝袋、五日分の食料を詰め込む巨大なザックは一年生の夏合宿以来クローゼットの奥で洋服に埋もれ、あの重たいけれど最高に充実感に満ちていた感覚も忘れかけています。宿泊や他県への移動が制限されたために、大自然の中で仲間たちと非日常世界を味わうというワンゲル本来のあり方とは反対に、いつもの見慣れた教室でミーティングをするという活動が中心となってしまいました。

山に登りたくて、星空が見たくて、山頂でカップラーメンを食べたくて、そんな思いで入部してくれたたくさんの部員に、山の魅力に触れる経験をさせてあげられなくてやり切れなさを感じます。しかし、そんな難しい状況の中でも、ワンゲルとして二度の山行を実施することができ、どちらも印象に残るものでした。

1つ目は、山中温泉付近に位置する富士写ヶ岳です。ワンゲルとしては珍しい冬の山行で、慣れない厚着の服装をどうするか悩んだことを覚えています。一、二年生合計12名で出発し、滑りやすい落ち葉の道や、鎖場をクリアしながら山頂を目指しました。元気が有り余っているせいか帰りは小走りで下り、トレイルランニングのようでした。下山後には鶴仙溪や温泉街など山中の名所を散策し、さらに部員との距離が近くなったのを感じました。そしてもちろん、登山後の温泉は格別で、入浴後のメンバーには大満足でやりきった表情が見られました。

この山行は、黒崎敏男様をはじめとするOB会の方々の支援によって、バスやその他の費用を賄うことができました。久しぶりの山行を不自由なく実施することができ、OB会の皆様には心より感謝申し上げます。



富士写ヶ岳・2020年12月7日

2つ目は、七月に開催した医王山新歓登山です。富士写ヶ岳とは反対に、焼けつくような日差しのもと、これでもかと緑が生い茂る夏山に登りました。熱心な二年生による新歓活動のおかげで想像を遥かに超える新入部員を迎え、三日に分けて山行を実施しました。登山前のミーティングではパーティや役割決め、もしものことを想定した救助の方法などを学習し、万全の準備で臨みました。

登山当日、私のパーティは鎖場が続くトンビ岩を経由後、夕霧峠で昼食を取り、山頂の奥医王山に向かいました。鎖場は標高も高く、険しい崖だったにもかかわらず、新入生は平気な顔でスラスラと登り、上回生を驚かせました。そして、登山中はずっと互いの話で盛り上がり、終盤でも和気あいあいとした雰囲気広がっていました。



医王山・2021年7月18日

この新歓登山では、主役だった一年生はもちろん、二年生の成長も強く実感できるものでした。

初めてパーティのリーダーとして登山計画を立て、コンパスと地図を片手に先頭を歩く姿は非常に頼もしかったです。途中、出発地点を変更したり、体調不良者が出たりした時でも、臨機応変に対応し、安全でスムーズな登山となりました。翌日のミーティングでは、たくさんの部員が登ってよかった、気持ちよかったと意見交換し、良い形で今年度の登山をスタートできました。

以上二つが、ワンゲルで行った主な登山活動です。例年と比べ、頻度やそのスケールは縮小しましたが、みんなが自然を好きなことや、学年の枠を超えて協力しながら楽しめることといったワンゲルの本質は共通しています。先行きが見えない状況ですが、これからも歴史ある金沢大学ワンダーフォーゲル部がずっと続き、現役部員やOBの方々が誇りに思う部活動として成長し続けることを祈っています。残りわずかではありますが部長として最後まで尽力し、新体制になるワンゲルの今後の活躍にも強く期待します。

(10月から水谷冠太さんが新部長に就任されています。)



『やまざと』昨年号までに続いて、今回も、近年の外国での写真を紹介させていただきます。

その12:タイからビルマ(ミャンマー)国境までの断片的な記録、写真でご紹介

昨年号の末尾で、「以前からタイへ行くごとに、大東亜戦争末期に日本軍がタイからビルマへの物資運搬のために、連合国軍捕虜と現地雇用者を動員して建設を進めていた泰緬鉄道(Death Railway: 415kmを20ヶ月の突貫工事)を、奥へと辿っていました。ついに、2017年に、ビルマ国境の三仏塔峠(Three Pagodas Pass)に到達しました。次号ではそのご紹介を。」と書いておりましたが、そのご紹介です。

泰緬鉄道は、現代のタイ国バンコクの西郊トンブリ駅^{Thon Buri}からビルマへと延びる鉄路ですが、ナムトク^{Nam Tok}から先のレールは撤去されたまま。



戦後に作成された泰緬鉄道(死の鉄道)路線図:英版Wikipedia による



トンブリ駅には広い車輛基地があつて、工場もあります。蒸気機関車の火室からボイラーを取り外しての大修理(日本製C56)にはちょっとビックリ。戦後賠償に相当する「日タイ特別円協定」によると思われる蒸気機関車が、今も磨き込まれた現役で、特別の行事に使用のためか、国旗を掲げていました。中程はその動輪と機関車銘板とで、日本車輛1949年製と川崎重工1950年。右は、カンチャナブリの戦争博物館で展示されている、鉄道開鑿当時の日本陸軍機関車。



映画「戦場にかける橋」と、その「クワイ河マーチ」で有名になったクワイ河橋。今は鉄橋ですが、木造橋建設の困難さが偲ばれます。続くタムカセーの栈道橋と、バンコクからの女学生さん。



夜を徹する突貫作業で開鑿された地獄ノ劫火峠。連合国軍捕虜の記憶による夜間作業の絵と、日本軍撮影の人海戦術の様々(軍基地内の、戦争博物館展示)。連合国軍捕虜の遺族が訪れて、供養の品も各所に。説明碑(右)に拠れば、英蘭豪米捕虜の死者が約12,000人。現地雇用(動員)労務者の死者が約80,000人。日本軍死者が1,000人(含、朝鮮)。



地形狭隘の地を過ぎれば、やがて山地はたおやかとなり、国境の三仏塔峠に向かって坦々と。



国境のだいぶ手前で、簡単な検問所。坦々とした行程に飽きてきた頃、道は突然に片側3車線の立派な街路に。その遠くに3つの仏塔が見え、ついに国境です。仏塔の脇には、明らかにビルマ人の花売り。ほおの装飾兼陽よけ「タナカ」(右はビルマ国内撮影)で、それが判りました。

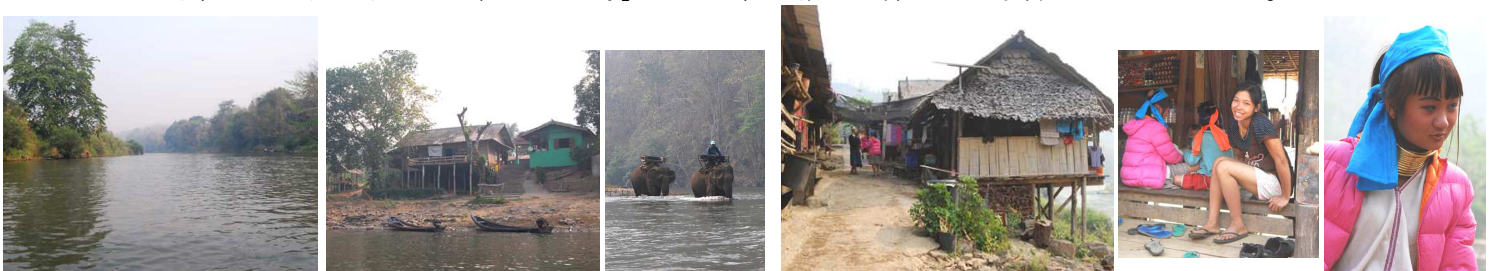


ついに、ビルマ国境までやってきました。左端写真の右の国旗が出国管理所で、青色標識に「出国者は知らせよ」とあるだけで、商売の人達は勝手に出入りでした。そこで、国境標識の先へ越境してみましたら、ここで再び、泰緬鉄道の鉄路がかなり残っているのに出逢いました。

長大なタイ・ビルマ国境は、かなりが境界未確定と言われています。そこで、北方での一例を。



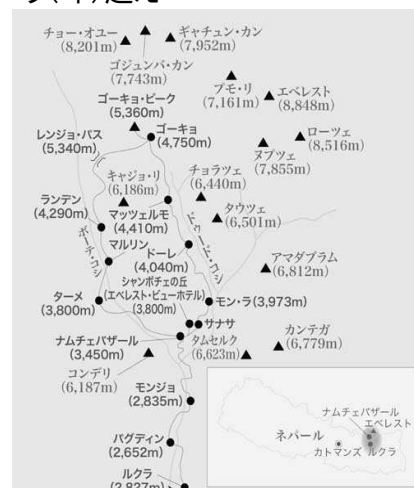
2013年の浅春に、タイ北部のスコータイなどの仏蹟を10日ほどをかけて廻りました。Mae Hong Son
メーホンソンまで来ますと、タイの面影はまぼろしと消え、お寺も仏様も、もうビルマです。その際、地元の人達が往復している国境に行きたく思ったのですが、沢山あると言われる道のどこも、「四駆車でもダメで、河ならば。」そこで、河沿いを案内して貰うことにしました。



サルウィン河の支流・パーイ川まで行って、船外機付き小舟で。ペンキ塗り建物が見えて、そこがイミグレーションとの由。「来なくて良い。」と言われて待っておりますと、話がついたようで、更にビルマ方向へ。岸边に見えていた道もやがて消えて、荷役の象がゆったりと。「もう、ビルマ内だ」の言に、そこで引き返しました。帰路、「カレンの難民の村が」との由で、ちょっと上陸。生まれた時点で選ばれた女性が首に輪を付ける、カレン・パドウン族の人達でした。

タイ・ビルマの主な国境交易路は、両国のミャワディ・メーソートですが、そちらは普通の通関です。ここで紹介の2ヶ所は、ビルマの政変後、外国人には閉ざされているかも知れません。

2018年の浅春には、ネパールの山に行ってきました。2015年の大地震以後、躊躇していたのですが、もう大丈夫かと思ひましての。



A collage of eight photographs showing various aspects of the Everest Base Camp trek. The images include: a busy indoor gathering of people, likely at a lodge or camp; a view of snow-capped mountains; a small airplane on a tarmac; and close-ups of red and purple flowers.

20



ゴーキョ・リからの、たどってきたゴジュンバ氷河全域の眺望。山は、左から、チョーオユー8188m、ギャチュンカン7952m、エベレスト8848m、ローツェ8516m、マカルー8481m、など。



頂上からエベレストを望んだ翌日には、西のレンジョ・ラ(峠：5340m)を超えて、隣のボーテコシ川の流域へ。登るにつれて再びエベレストが見えてきて、峠(中写真)に達すれば、純白のテンギランギタウ(6943m)が。この流域の上流は、ナンパ・ラを経てチベットへの、昔からの大交易路でしたが、今は国境は閉ざされたままで、道跡は薄れて、その道標だけがむなしく。



そのまま下流へたどって、ルクラ空港から、愛想の良い乗務員さんと小型機でカトマンズへ。震災復旧を見て廻りました。タメル^{ダルバール}の通りと、次は 王宮広場。ここでは、各国が修復にあたっていますが、中国によるもの(中央と次の写真)が最大規模。延長10数mのパネルで詳しい説明がなされ、中国からの学生さんが、建物から剥離した膨大な数の建材修復を愉しげに。右は予算手当が難しくなったのか、途中で放棄された様な米国担当の現場。日本は小さな表示のみ。



タメル地区では、昔に同じの賑わい。近くの「クマリ(処女神)の館」は倒潰は免れたものの、支え木で何とかの状況。窓枠などの木彫りが実に壮麗な建物です。ネパールでは、「毎日、国のどこかでお祭りが。」と言われていますが、続けて、王宮広場近くでの何かのお祭りで、白観音を乗せた山車^{サドゥ}。右は、ネパールやインドの聖地で、時折出逢う、ヒンドゥーの放浪苦行僧。

ここで、念のためのご説明を: 拙稿ページは、全部を筆者が作ったものです。一昨年から、投稿は個人4ページ・支部8ページ以内、写真は1ページにつき2枚まで(その挿入編集に手間を要す故か?)とお定めになりました。じつは以前からですが、編集の労の低減に資するようと、拙稿は上述のように自身で編集してPDFで提出しております。それゆえに、規定とは関わりなく写真がたくさん掲出のページとさせて頂いております。

なお、毎号の執筆ご常連各位にも、「写真沢山の稿の編集お引き受け可」との事前ご連絡を差し上げました。

(一連の稿は、KUWV-OB会のHP中、「会報Web版」からご覧頂きますと、カラーでの閲覧が可能です。)

HP上でご覧頂く場合は、拡大してご覧下さい。拙稿挿入写真はA3でご覧を前提の解像度です。

15 期 舟田 節子

「そんなに感動するものですかあ？」

通りすがりの英語非常勤講師が、呆れた顔をしていました。カメラ趣味の某男性非常勤講師も私も、「ハア～」と惚れ惚れで見ているのは、白銀の剣・立山、そして白馬への大パノラマ。当時の勤務校は、海岸部の平野に建っていたため、冬の晴天日の渡り廊下からは、そんな絶景が楽しめました。わかる人にはわかる…と言うしかない至福です。

いよいよ古希…コロナ2年目は、まだまだ攪乱中ですが、その分、じっくり、回顧に浸れました。

某月刊機関誌への「山と花」写真の提供は今も続いています。

そもそもは、昔の卒研指導教官にも、カナディアンロックイートレッキング映像を送信しました。それを、彼が所属する社団法人の機関誌の季節映像として掲載したら、大好評だったのがきっかけなのです。

以来、「山と花写真大歓迎」となって、提供が続いています。私の方は、「どうだ！」が鼻につくような撮影グループは御免で、講釈も腑に落ちない方ですが、地球の宝に惚れ惚れしてもらえるものなら、この程度でよろしいのであれば、どうぞどうぞ…なのです。

ただ、会の構成メンバーなど詳細を知らない（結構、名誉教授…なんて方がおいでる）ので、複数の映像を送信し、どれを選ぼうと自由…というスタンスでいます。

ですから、時に、「おお、そう来るか！」なんて選択もあります。解釈いろいろ、ときめきいろいろ…。それが自然の懐の深さ、どう楽しんだっけという感じです。

3年ほどは撮影ほやほや映像を送信し、お蔭で「取材」の足が動くような効用もありました。

それが、コロナのせいで取材が難しくなり、アーカイブ（過去の記録）披露のハードルが下がりました。テレビだって、受信料をとっておきなが

ら、臆面もなく再放送ばかりをやっています。自分が撮った映像である限りは、最新映像ではないことが、そう手抜きに当たるわけではありません。

こんな、披露という機会がなかったら、これほど丁寧に、過去の映像をチェックすることもなかっただろう…と、これには感謝です。

以前は、「次！」「また、次！」と、あまりにせわしなく過ごしていました。ついつい、過去はもう古いとか、怠慢だとかの評価も下しがちでした。反省です。

11月号…荒沢岳

12月号…奥多摩

1月号…カンチェンジュンガ

2月号…雲竜溪谷

3月号…ニュージーランド

4月号…伊吹山・藤原岳 特別号…放鷹術

5月号…大崩山

6月号…雨飾山

7月号…至仏山

8月号…オートルート（モンブラン）

9月号…オートルート（マッターホルン）

10月号…苗場山

を、この一年で、紹介してきました。



<荒沢岳前嶺と紅葉 2008.10.12>

荒沢岳…300名山には入っていないのに、200名山には入っている山。田中陽希のグレートトラバースで、わざわざ301座と強調したことから、また脚光を浴びました。

それは、時期的には後になった「200名山」が、深田クラブによる選定だったため、久弥が登りがっていた山であることにこだわり、かつ銀山平

からの無雪期ルートができたことで、晴れて新デビューとなったようです。前嵯の岩場は圧巻ですが、鎖やロープさえあれば、ひとまず一般道の内。岩と紅葉の頃がベスト。

奥多摩…東京のツアー会社の馴染のリーダーの本拠地がここでした。忘年山行シリーズとして4年がかりで、三頭山などを一周する企画を出してくれました。毎日布団を干せるのが、表日本の冬なのです。

輪カンに閉口していた私は、喜々と深夜バスに乗って参加し、この方面のシモバシラや、富士の絶景を楽しみました。関越高速バスの事故前、往復6400円の深夜便があり、早朝6時に新宿着。フル活用していました。



<日本海側にはないシモバシラ 2012. 12. 9>

カンチェンジュンガ…中島建郎・石井邦彦のグレートヒマラヤトレール取材が丁度放映されていました。

私のようなくの海外トレッキングデビュー時には、王室乱射事件でネパール方面ツアーが壊滅してしまっていました。同じエリアといえるシッキムで妥協し、ダージリンや、シェルパ活躍の背景を知りました。SLだった谷口けいちゃんとは、ここで始まったご縁です。

4940mのゴチャラへ登頂の朝、パルスオキシメーターは、70を切ったはずで、金魚のパクパクの目に遭いました。今の、90を切ったら救急車…の報道の度に思い出してしまいます。

なお、金大山岳部顧問だった鹿野勝彦先生は、この世界第三位の標高の山での同時縦走隊の隊長を務められた方です。さらにその奥様は、ベル

クハイム小屋番の田村教祖をMBで慰問されるような、野性味あふれる方でした

雲竜溪谷…厳冬期、日光の赤薙山下の谷、砂防堰堤群の奥に巨大な氷柱群ができます。「ブルーアイスの回廊を進めば、そこは氷柱神殿」…のフレーズに、軽アイゼンで、遠征しました。

ニュージーランド…岩崎元郎氏の地球を遠足シリーズでした。北島のトンガリロ国立公園を歩き、南島ではマウントクックのフッカー谷をトレッキング。エドモンド・ヒラリーの出身地であり、また高度障害なしで極地ロケができる国、星空保護区が観光資源になっている国でもあります。

ハカの本場物を見て、ワールドカップも楽しみました。

伊吹山・藤原岳…カタクリ（オンソリ山）や、オオミスミソウ（猿山）を紹介してしまったら、次はフクジュソウ、セツブンソウの番になるというもの。ヤマトタケルにちなんで、ヤマトグサも紹介。

放鷹術（いわゆる鷹狩）…番外編。城と庭のもてなし事業で、フードピアの時期に、金沢城公園三の丸広場にて、放鷹術を披露しています。広さと共に、お城をバックには独特の空気感があります。

お正月の出初式といい、城内キャンパス育ちは、今も胸キュンになりながら、観光イベントを眺めています。

大崩山…日本三百名山の西半分制覇を目指しておいでた篠島先輩の絶賛の山。さらには、アケボノツツジが咲く頃がベストとあり、その時期のツアーを選んで参加。盛り上がるような花崗岩群が、それは見事で、日本は広い！になります。

雨飾山…荒菅沢が残雪豊富で、シラネアオイが咲く頃。久弥と志げ子さんが再会したばかりで、「左の耳は僕の耳、右ははしけやし君の耳」とよんだ歌のまつわる山です。

とある夏、北アが天候不順で、山田旅館泊に変更し、時間をもてあましてしていると、とっておきの

8ミリを見せてもらえました。それは、深田夫妻に同行した友人教師が一か月分の給料をはたき、三度目の正直で登頂した際に撮ったものの、複製。「深田先生の百名山の本のお蔭で、私達のような山宿もやっていけます」と語ったおかみ。あれから、予約のとれない宿になって…。

至仏山…花には詳しくなってきたから、オゼソウや、ホソバヒナウスユキソウを見るのが楽しかったです。

至仏山を背景に、尾瀬が原の木道を行く歩荷さん…が表紙でした。見上げる歩荷量を初めて見た読者は、驚愕したようです。

オートルート…もちろん、夏山の題材には全く不足していません。でも、コロナ後は、かえってヨーロッパアルプスなどは大変貌しているかも？載せるなら今の内かも？なんて、気を回しました。

ヨーロッパアルプスは、登山鉄道に、ロープウェイに、開発時期の早さや規模が半端ない。自然保護のため大反対というより、保護をしながら観光活用するにはどうすればいいか…の考え方をする国です。

おっとっと「オートルート」とは、フランス語で「高い道」のことです。「モンブランに見送られ、マッターホルンに迎えてもらうというドラマティックなストーリーが人気のコース」で、もともとは100年以上の歴史あるスキーツアーコースです。近年のブームで、無雪期にも、11か所の3000m近い峠と谷を踏破する総距離180kmの山岳ロングトレイルとして楽しめるようになったのです。参加したのは、そのうちのハイライト部を12日間（実質8日）で味わうものでした。

シャモニー周辺、ツエルマット周辺は、あまりに観光化され、まるでアミューズメントパークのよう…。

その当時は、快適に、スマートにという山遊びのあり方には、強い違和感をもちました。でも、使いもしない林道を延々と山肌に刻むより、ヘリでピンポイント移動したり、ゴンドラの支柱が立つだけの方が、生態系への負荷は少ないのです。

加齢した今は、それらに頼って、絶景を楽しむに行きたいと思っています。

さて、この手のトレッキングはシングル参加の相部屋が基本で、シングル希望は追加料金を払うというシステム。その方が、いろんな人と話ができ、これも、ツアーの醍醐味です。

この時の某相部屋さんに、北陸の山の話をしたら、「大笠も登ったことがある」と。しかも、しんがりのSLがいつまでも下りてこなくて、結局桂湖に浮いているのが見つかった…と。彼は夜盲症があったようだから…の話には、びっくり。近年あった北陸での遭難話を、まさかアルプスの山中で、当事者筋から聞くことになるとは…。

そういえば、四姑娘トレッキングの時も、「氷壁のモデルは私の弟なのよ」を聞きました。切れたザイルの件を、井上靖が取材に来ていたそう。私、思わず、その女性の実年齢は？を、計算しておりました。

苗場山…2回登り、苗場スキー場からも特異な山容を眺めました。最近の「グレートトラバース」や、「日本百名山」では、ドローン映像が流れます。こんなふうに俯瞰してみたかったなあ…のうちには、苗場山も該当します。平坦なせいで、1000もある池塘のごく一部しか見られない…。つくづく、もう、ドローン映像の時代です。

さてさて、実家の整理をやったおかげで、アルバムも見直しすることになり、こんな「過去もの」も出てきました。



<白峰殊才商店前（中1）1963.7>



<犀川ダム湖にて（中3）1965.5>

その昔、つまり昭和38年に、金沢大学教育学部附属中学校に、ワンダーフォーゲル部ができま

した（ギネスものか？）。それも、一年生女子3人が音頭をとり、理科教官に顧問をお願いして作ったものです。

それは、たまたま、知人（親の職場知人の娘）の友人が、小学校の時の教生から、「ワンダーフォーゲル」という、新しい言葉を習ったようなのです。他は「何それ？」だったのですが、山岳部よりはおしゃれみたい…と、真似ることになりました。その頃、小学校へ教生に来ていた先輩となると、6期の紺清さんあたりでしょうか？

ともあれ、第一回の夏合宿は白山。砂防から、岩間新道を2泊3日（室堂、岩間温泉泊）で歩きました。写真で数えると、先生4名に、生徒は12名います。第2回は立山三山を2泊3日（内蔵助山荘、雷鳥沢温泉泊）。

そして3年になっての春、「犀川ダムの奥に、ワンゲル部の山小屋があるんだって」で、山小屋を目指すことになりました。でも、駒帰から3時間。今、高桑さんの慰霊碑のある場所で時間切れになって、昼食。砂利道でしたが、幅広い道で、ガードレールもあって、山側には擁壁があり、わざわざそちらへ上がって、食べていた人もいました。

山小屋といたら、北アルプス方面の印象しかない。このダム湖の奥という立地で、いかなる山小屋が？想像もつかないまま、引き返し…。

ともあれ、「じわもん」（現地人）だったから、ワンゲルとは、その時に、もうニアミスをやっておりました…。

ただ、私の山は、山好きの父に連れられての家族登山から出発しています。私が小6、弟が小2の時も、ゆっくりモードで表銀座を歩いています。

私の方は長男次男の手が離れかけた30歳から社会人山岳会に入りましたが、三男の誕生から、家族登山スタイルになりました。そして小2で槍（に、登らせる）も叶いました。

自分自身が歳を重ねて親になると、人間としての親に、向き合える時期がくるものです。あの頃、「家族登山」という言葉はなく、実際、他に子供連れを見掛けませんでした。

父は、肺結核専門の外科医ということで、2週間単位での治療スケジュールというのがあり、休

みはとりやすかったのです。また、看護婦さん親子や、調理師さん、ボイラーマンも、メンバーに加わったりしました。

それが開業して、3年は軌道に乗せるまでと、おとなしくしていましたが、その後は、今しかないとばかり、1週間の夏山休みを取るようになりました。ちなみに、立山～三俣蓮華～伊藤新道（私は高1）や、折立～雲ノ平～槍ヶ岳～新穂高（高2）を歩いています。

今の方が、よくもまあ、患者をあちこちをお願いしたりの決断をやったものだ！と感心します。

結局のところ、そんな刷り込みがあったから、私は、旦那や子供とは山遊びをするものと思っていたし、学習塾の仕事仲間とも、毎夏北アルプス歩きをしていました。海外トレッキングも、「今なら、行ける！」と、飛び出していました。

この躊躇しないところ、「行きたい」という目的のためにはあらゆる工夫をし、都合をつける（譲らない）ところは、まさに親譲りです。



＜新穂高から9時間半で槍ヶ。 1994.10.8）

息子達は「山へ拉致されていた」と言うけれど、かけがえのない時間を過ごしました。それぞれを嫁さんに渡した今は、夫婦で、のんびり山歩き…晴れている方面へ花探しです。

山だったからこそ、人生のどんな時も付き合ってこられました。花見の次には、どんな発展形にして山を楽しむか？

時間だけはある…。あるようで、ないのかも？？

1. ふるさとの山・鈴鹿
2. 鈴鹿を点で遊ぶ（湯の山温泉、志賀直哉『菰野』、映画『男はつらいよ フーテンの寅』）
3. 鈴鹿を線で遊ぶ（登山/沢の遡行/君ヶ畑越え、五代友厚・次女の治田鉦山、『冬虫夏草』）
4. 鈴鹿を面で遊ぶ（朝明溪谷の小屋）
5. 鈴鹿最奥の廃村にある山小屋

1. ふるさとの山・鈴鹿

三重と滋賀の県境に南北に連なる鈴鹿山脈は、三重はもちろんのこと愛知、岐阜の人々にとってもふるさとの山だ。三重県在住・出身のワングル諸兄姉には異論もあろうが、鈴鹿は三重だけのものではないのだ。名古屋からも、朝な夕なに鈴鹿の山々を眺めることができる。尾張地方の学校には、鈴鹿の山を唄った校歌が多い。知多半島からも伊勢湾越しに山並みを望むことができる。セントレア（中部国際空港）からの夕景は美しい。



【①鈴鹿の山並み（知多半島・大野海岸から）】

鈴鹿の山は何よりもアクセスがいい。名古屋からだと公共機関で麓まで1時間半～2時間だ。車で新名神や東名阪を行けばさらに早い。三重県側は急峻で、登山口から山頂まで3時間もあれば登れる。週末に気軽に行けるのが鈴鹿の特徴だ。東海地方の大学〔名古屋、名古屋工業、名古屋市立、三重、岐阜、名城等〕ワングルのトレーニング山行には鈴鹿がよく使われる。鈴鹿最奥の廃村には名大ワングルの山小屋（1966年～）がある。

坪井さん（24期）の呼びかけでKUUV 東海支部が発足したのは2012年4月。記念すべき第1回PW〔同年5月、PL 竹本さん（21期）〕は、ロープ

ウェイがあり老若男女誰でも登れるということで、当然のように御在所岳（1212m）が選ばれた。5月の御在所岳はツツジ科のアカヤシオやシロヤシオが山肌を鮮やかに彩る。ロープウェイ組と登山組に分かれ、山頂で15名が合流。下山後は地元白井さん（9期）ご紹介の温泉でPWを締めくくった。〈東海支部発足の経緯や御在所岳PWの詳細は『やまざと』vol. 27をご覧ください。〉

東海支部が発足して10年になろうとしている。同期の横のつながりだけだったのが、支部の発足で先輩後輩の縦のつながりができた。こういう機会を作ってくれた坪井さんには本当に感謝している。縦の糸と横の糸が織りなす布は、坪井さんには今どう見えているのだろう。

鈴鹿北部の山体は石灰岩、南部は花崗岩で植生も違う。東西でも全く異なる相貌を持つ。近江側は奥深く重厚で、忍者が身を潜めるにはうってつけだ。山麓に沿って、天台宗の湖東三山（西明寺、金剛輪寺、百済寺）などの古刹が点在している。琵琶湖に注ぐ愛知（えち）川を遡っていくと臨済宗永源寺大本山・永源寺がある。愛知川は茶屋川と神崎川に分かれ、鈴鹿最奥の地へと続いている。

畿内と東国を結ぶ街道として、いにしえより多くの道が鈴鹿山脈を越えている。北から、治田峠（770m）、石樽峠（690m）、八風峠（940m）、根の平峠（803m 千草越えとも呼ばれる）、武平峠（880m）、鈴鹿峠（357m）などがある。鈴鹿峠が最も標高が低いので飛鳥時代から整備されてきた。

坂口安吾『桜の森の満開の下』（1947年）は、昔の鈴鹿峠の山賊と鬼女の話だ。京で白拍子や武士、貴族などが登場するので平安時代後期から鎌倉時代の頃と思われる。戦国時代の武将では織田信長の1570年の千草越えが知られている。岐阜へ戻る信長の行く手を浅井長政が阻んだため近江路を断念し、千草越えに変更した。峠で刺客の杉谷善住坊に待ち伏せされ鉄砲で撃たれたが弾は逸れ、信長は無事に岐阜へ戻ることができた。徳川家康も、1582年本能寺の変を受けて三河へ逃れる時に鈴鹿の山を越えている。

鈴鹿はかつて鉦山開発や炭焼きなどで賑わいを見せた。そこには多くの埋もれた歴史がある。近江側の木地師の里は惟喬親王伝説で有名だ。これは史実ではないが、伝説が生まれその言い伝えを信じてきた人々の暮らしは興味深い。

2. 点で遊ぶ (湯の山温泉、志賀直哉『菰野』)

鈴鹿の観光地で最も有名なのは、御在所岳の山裾にある湯の山温泉だろう。三重県菰野町の溪流沿いの温泉だ。歓楽街と呼べるようなものはなく、谷あいには静かに佇む風情がいい。関西の奥座敷と呼ばれたこともある。

志賀直哉の短編小説『菰野』は、この湯の山温泉が舞台だ。志賀直哉（1883-1971 年）は「引越し魔」を自称するほど、生涯で 23 回転居を繰り返した。『菰野』執筆時点（1933 年 7 月）は奈良市に住んでいた。当時、志賀直哉の年の離れた弟が詐欺に遭い、手形の取立てに母親のところへガラの悪い連中が押しかけて、志賀家はひどく落ち着かない状況が続いていた。「すきまだらけの気持ちで、鴨がわざわざねぎをしょっているような生き方をしているから詐欺に遭うのだ」と、弟への評価は手厳しい。志賀直哉は、前から一度行きたいと思っていた湯の山温泉（当時は菰野温泉とも呼ばれていた）へ、ふと思い立ち、独り関西本線で出かける。この弟にからむ事件を小説にしようと考えたのだ。寿亭の別館に通され「落ちついて書きものをするにはよさそうな部屋だ」と気に入る。三日目、夕方帰宅。結局、湯の山温泉で小説に取り掛かったがまとめることができなかった。しかし、宿で書きあぐねている様子も含め、逗留した時の出来事をそのまま書いて世に出したのが『菰野』だ。さすが文豪、というべきか、

ロープウェイ湯の山温泉駅のすぐそば、橋のたもとに和風旅館「翠月」がある。家族経営のこじんまりとした旅館だ。湯の山温泉は、映画『男はつらいよ フーテンの寅』（シリーズ3 作目 1970年）の舞台になった。「翠月」は寅さんが働いた「もみじ荘」ではないが、寅さんが信夫（マドン



【②湯の山温泉 和風旅館「翠月」】

ナ新珠三千代の弟)と口論する場面が「翠月」で撮影された。外観は当時と全く変わっていない。

この宿には10年ほど前、山仲間20名で泊まったことがある。会の拠点は東京だ。関西や東海地区のメンバーも参加できるようにと、中間地点の東海地方で集まることになり、宿探しを担当した。「前夜に温泉で宴会をやって翌日山に登る」という条件で色々検討したら、「湯の山温泉で宴会をやって翌日御在所岳に登る」という結論になった。やはり湯の山温泉なのだ。「翠月」もずっと気になっていたので泊まれてよかった。昔の別荘を改築したものとかで、内装もなかなかクラシックだった。

旅館のすぐ下流には、涙橋がある。赤穂浪士の討ち入りで有名な大石蔵之助が愛人・阿輦に事の真相を話し、別れる場面で有名だ。大石は人目に付きやすい鈴鹿峠を避けて、武平峠を越え湯の山温泉に来了。もともと浅野内匠頭の弟の奥方が菰野藩主の娘ということで地理感もあったらしい。

3. 線で遊ぶ（登山、沢の遡行、君ヶ畑越え）

《登山》北は霊仙山（1094m）から南は仙ヶ岳（961m）まで鈴鹿には標高1000m前後の山々が20近く連なっている。1964年、三重県は「セブン・マウンテン」を選定した。北から藤原岳（1143m）、竜ヶ岳（1099m）、釈迦ヶ岳（1092m）、御在所岳（1212m）、鎌ヶ岳（1161m）、入道岳（905m）、雨乞岳（1237m）だ。〈森島さん（4期）が『やまざと』vol.12に、セブン・マウンテンの全山登頂記を寄稿されているので、詳細はそちらをご覧ください。〉滋賀県側の東近江町では、2015年、町を取り巻く山の中から「鈴鹿10座」を定めている。御池岳（1241m 鈴鹿山脈最高峰）、藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、御在所岳、雨乞岳、日本コバ（934m）などだ。滋賀県側は登山口までの交通の便はあまり良くないので、車を使ったほうがいだろう。

《沢の遡行》三重県側は急峻で沢も短く、遡行を楽しむなら滋賀県側だ。愛知川源流では、茶屋川と神崎川が静と動の対比を見せて面白い。茶屋川は茨川廃村（標高 560m）あたりまで兩岸が迫るが、上流では穏やかな沢筋となる。三筋滝（落差 15m）を越えると伏流になり谷はそのまま御池岳（1241m）へと続く。紅葉の季節には素晴らしい谷歩きが味わえる。神崎川に大きな滝はないが、

長い廊下とトロが連続し、遡行の醍醐味が楽しめる。鈴鹿では一番人気の沢だ。下は、茶屋川入口にあった愛知川上流漁業組合の案内看板。右端の北側から南下するのが茶屋川、南側から合流する川が神崎川だ。下流で御池川を交えた愛知川は、永源寺ダムに流れ込む。案内図の中央を国道 421 号〔八風街道〕が横切っている。石樽（いしぐれ）トンネルを東に抜けると三重県だ。



【③滋賀県・愛知川上流案内図】

《峠越え》歴史に思いをはせて歩くなら君ヶ畑越え〔治田（はった）峠越え〕がお勧めだ。近江側から辿ってみよう。君ヶ畑越えは湖東から北勢への主要なルートだった。茨川廃村近くの蛇谷鉾山では銀を採掘していた。銀山の全盛時にはかなりの人々が茨川に住み、商人も往来していたという。

君ヶ畑越え：永源寺⇒政所集落⇒蛭谷・木地師の里⇒君ヶ畑集落⇒茨川廃村⇒治田峠⇒青川峡（治田鉾山跡）⇒新町⇒三岐鉄道北勢線阿下喜駅〔西桑名駅までの北勢線は鉄道ファンには見逃せない。黒部峡谷鉄道と同じ特殊狭軌（ナローゲート）で日本最長。特殊狭軌は国内に3路線しか残っておらず、もう一路線は四日市あすなろう鉄道。阿下喜駅前には軽便鉄道博物館もある〕

君ヶ畑集落から新町までは5時間強の道のりだが、できれば途中の茨川廃村の河原にテントを張って一夜を過ごしたい。茨川廃村から東へ治田峠（770m）を越えると三重県側の青川峡にはいる。ここには治田鉾山跡がある。蛇谷鉾山の衰退後、江戸時代には治田鉾山〔銅・銀など〕が最盛期を迎えた。幕府は治田を天領とし銀山奉行を置いた。鉾山近くには寺が建てられ、女郎屋も軒を連ねていたという。明治以降経営者は変わったが、1919年、この治田鉾山の掘削権を五代藍子が購入した。

五代友厚（1836-1885 年。ディーン・フジオカのイメージが強すぎて、友厚本人の顔が思い浮かばない）の次女藍子（1876-1965 年）だ。藍子は治田鉾山の麓町に移り住み、鉾山経営に打ち込んだ。しかし採算が取れぬまま閉山となり、藍子もこの地で生涯を終えた。

コロナ禍が終息していない状況では君ヶ畑越えコースは行けない。三重県側の青川峡も豪雨で谷の形が大きく変わったので事前確認が必要だ。

100 年以上前の近江側の鈴鹿を舞台にした幻想譚が梨木香歩の『冬虫夏草』（2013 年）だ。京都に住む主人公の学士・綿貫征四郎は、友人の飼った犬ゴローを探して鈴鹿の山中に分け入る。君ヶ畑越えの途だ。イワナの夫婦が営む「おやど いわな」や河童などが普通に出てくる。奥永源寺から政所、君ヶ畑の集落を抜け、茨川集落に辿り着く。最後に茶屋川上流の三筋滝で、ゴローを発見。三筋滝の別名は「犬帰りの滝」だ。惟喬親王が御池岳へ雨乞いの祈願に登山した折り、三筋滝でお供の犬が登れずに戻ったという故事が残っている。梨木果歩はこの話に着想を得たのかもしれない。



【④君ヶ畑集落入口 手前で引き返した】

4. 面で遊ぶ（朝明溪谷の小屋）

僕の中学には、珍しくワンダーフォーゲル部があった。顧問の先生が社会人山岳会メンバーで、自分の趣味で創部したらしい。友人 K とはそのワンゲルで知り合った。中 1 ながら既に老境の域に達していた彼は大人との付き合いのすべを心得ており、顧問の先生ともすぐ親しくなった。卒業後、朝明（あさけ）溪谷〔釈迦ヶ岳を源流とする三重県側の溪谷〕の別荘地で小屋の建設が始まると、高校生になったばかりの K は毎週のように小屋作業に駆り出された。なにしろ先生が車で彼の

自宅へ迎えに来る〔強制連行〕ので逃げようがないのだ。その見返りに彼は小屋の永久使用权を獲得した。お陰で僕は彼と一緒にいく限り、この小屋を自由に使うことができるようになった。

小屋が完成した高1の終わりから10年余り、Kとこの小屋に足しげく通った。ありがたいことに小屋には電気が引かれていた。水は近くの沢から引いた。オーナー（社会人山岳会メンバー）がふとん屋さんだったので、大人数が泊まるのに苦労はなかった。夜は枕投げで遊んだ〔修学旅行の小学生か〕。冬はこたつにはいって暖を取り、夏は野外でバーベキューや花火大会をして楽しんだ。大学に入ってから、帰省のたびKとこの小屋に泊まった。小屋をベースに、釈迦ヶ岳に登ったり、三重県側の急峻な沢（流レ谷、水無谷など）を詰めたり、主稜線を越えて滋賀県側の愛知川（神崎川）を遡行したりした。

小屋がなければ、こんなに鈴鹿を身近に思うこともなかったろう。小屋で新年を迎えるのが恒例になった。初日の出など拝んだためしはなかったが小屋で過ごす時間がうれしかった。社会人になってもこの小屋にはお世話になった。いろいろな人たちと泊まることができたのは友人Kのお陰だ。小屋があると本当にそこはホーム・グラウンドという気持ちになる。小屋は小屋にしか過ぎないけど、ここに集まる人たちによって小屋も変わっていく。それが面白かった。しばらくして彼も僕も名古屋を離れ、小屋へ行く機会は無くなった。

去年、40年ぶりに朝明溪谷を車で訪ねたが、小屋は跡形も無かった。でも朝明の小屋で過ごした友人や仲間との至福の時間は強く記憶に刻まれている。この思い出は色あせることはない。

5. 最奥の廃村にある山小屋

名大ワングルの山小屋が滋賀県側、茶屋川の茨川廃村（標高560m）にある。茨川は大変な僻村で、1887年（明治20年）、集落で飼っていた牛が狼に襲われたという記録が残っているほどだ。銀山や炭焼きで栄えた村も戦後は衰退し、林道が開通（1954年）するや離村が始まった。結局、村に電気が引かれることはなかった。1965年の廃村時に10戸近くあった建物は、今はわずか2戸だ。ワングルの山小屋〔1966年から借りている茅葺民家〕と、滋賀県立八幡工業高校山岳部の前進基地〔旧

政所小学校茨川分校の建物〕だ。この2つの建物はカーナビにも載っている。もちろん、どちらも部外者は使えない。廃村後は林道が不通になったので、ワングルの小屋へは三重県側の青川峡から治田峠を越えていたのだろう。



【⑤ワングル茨川小屋】

近年茨川林道の整備は進んだが、一般道ではないので崖崩れで通れなくなることがある。未舗装で凸凹もひどい。ある春の日、悪路に強いSUVで廃村へ出かけた。鈴鹿山脈をぶち抜く全長4kmの石樽トンネルの開通（2011年3月）で近江側へのアクセスは飛躍的に良くなり、名古屋から茨川廃村まで2時間で行けるようになった。麓の木々は青葉の盛りだということに、春遅い茶屋川沿いの緑はまだ淡い。山桜や山ツツジ、藪椿が見頃だった。空気もすがすがしい。聞こえてくるのは川のせせらぎと鳥のさえずりだけだ。途中イワナの釣り人を見かけたが、廃村に人の気配はなかった。

茨川の山小屋は、とてもふさわしい場所にある。西丸震哉は『山小舎を造ろうヨ』（1987年）の中で、山小屋の適地例として、完全に浮世から隔てられた別世界しかも半日くらいで行けるところを「手近な人外境」として挙げている。茨川廃村は下界から隔絶されており深山の雰囲気を感じることができる。車でも行けるが林道は廃村手前で通行止めになっているので、一般人や釣り人に邪魔されることもない。山小屋をベースに鈴鹿の最高峰・御池岳への周遊ができるし、鈴鹿の主稜線も近くさまざまなバリエーションルートが楽しめる。

小屋作業の時には、健脚組は治田峠を越え、熟年組や現役の作業隊は車に資材を積み林道経由ではいるのだろう。自分たちが住む名古屋から毎日眺める鈴鹿の山、そこに山小屋を求めたのは、ごく自然な成り行きだったのだと思う。

会員のご意見

以下に、これまでにあったご意見を紹介します。

「やまざと」について紙媒体の冊子である必要はないのではないのでしょうか。

随時電子冊子に移行してはどうでしょうか。

そのためには、投稿者の書式、構成等を統一した方がいいと思います。

例えば:A4 サイズ、Word 40 文字×40 行 10.5 明朝体

タイトル、何期、氏名、本文、写真の貼り付け等
もし、修文、校正等をしないなら、PDF で送付して頂く方式もありかと思います。

18 期 井上茂良

私も別のOB会を世話しており、経費削減に努力している関係でコメントさせていただきます。昨今、私製文書は極力、脱紙化が図られており、私たちも年2回の会報発行もメール配信で行っています。A4 サイズで50 数ページ、画像も投稿者判断で配置しています。ワード原稿をPDF 変換で数MPA に軽くして配信時の重さ軽減を実現しています。メール受信設備のない会員にはCD 版に収蔵して送付していますが、その時のCD 版作成実費を会員に負担して頂いています。約100 名の会員中、10 名程度が対象者であり配送担当者の作成作業負担は僅かです。このオンライン化で、会計支出の印刷、配送費が大幅に減少、会費制が不要になりました。

また追加して会誌に、OB会規約、入会手続き、OB会運営体制、幹事分担(会計のテーブル表示、自主監査文)、会費振込み者の記載等のページを毎号設けて頂きたいと希望します。

5期 金岩 孜

随時、ご意見を募集しています。

巻末の会長のアドレスにメールをお願いします。
頂きましたご意見は次号の「やまざと」にて掲載させて頂くとともに、次回総会において検討結果をお知らせしたいと思います。

令和5年（2023年：次回総会開催年）までの

OB会会費及び寄付金の納入についてのお願い

会計担当 23期 小久保光将

日頃よりKUWVOB会運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

当会では5年ごとの周年行事をはじめ、会報「やまざと」の発行、小屋作業（小屋酒場）、現役との懇親会等多くの行事を継続的に実施しております。

これもひとえに多くのOB・OGの皆様から会費のご協力があったからこそ継続できたものであり、この場を借りて皆様のご協力に改めて感謝する次第です。

おかげさまで今期の一般会費収入は2,718,000円、今期から新たに開始した現役活動支援寄付金収入は912,000円（うち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた現役生への無利子貸付支援金への寄付分として390,000円）のご協力を頂きました。

今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 会費

年2,000円。ただし、事務負担軽減のため、5年間の一括払い（＝10,000円）にて納入いただければ幸いです。会費納入有無の確認は会長（巻末）までご連絡ください。

2. 現役活動支援寄付金

・「現役活動支援寄付金」として任意のご寄付をお願いしております。ご賛同いただける方は1口2,000円として、任意の口数を会費に加えてお振込み頂けますようお願い申し上げます。

・この寄付金は、現役生の活動支援や将来における万一の事故対応の目的等で使用することとし、当面の間、積立金として一般会計とは別に管理します。

3. 納入方法

- ・今期のご入金が無確認の会員の方に郵便局扱いの払込取扱票を添付しております。この振込用紙をご利用ください（手数料は各自のご負担となります。）。
- ・その際、金額、住所、氏名、ご自分の「期」をご記入ください。
- ・銀行振込でもOKです。その場合は次の口座へお願いします。

北國銀行本店営業部 普通預金No.223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

[illegible]

新型コロナウイルス感染症もようやく一旦下火となっており、一安心というところですが、これまでの会員の皆様の生活や活動には大きな影響があったと思います。そういう中、皆様からのご厚意により現役生を応援するための活動支援資金が集まりました。支援活動への資金援助のご協力誠にありがとうございました。利用希望者はありませんでしたが、年度末まで継続し、年度末で現役活動支援寄付金に組み込みました。

今回、これからのOB会活動、中でも本誌「やまざと」の今後の対応等についてご意見を頂き、紹介しましたが、時期に関わらず下記の会長のアドレスまで頂ければ次号での掲載を準備します。なお、できるだけ多くの会員のご意見を掲載するため掲載用原稿については氏名と期（匿名の場合はその旨）をご記入のうえ400字以内にまとめて頂くよう、誠に恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

小屋もまだまだ健在ですし、会報発行程度の作業はさしたるものではないのですが、会員の高齢化に伴う活動力低下、実質的な会員数の減少による会費収入の減少といった10年、20年後の現実を見据えて少しずつ対応を考えて行きたいと思います。特に中堅、若手の会員からの積極的な提言をお願いします。

OB・OG・現役の皆さまのご協力によって今年も第36号「やまざと」が発行できました。心より感謝申し上げます。

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会会報誌「やまざと」 vol. 36

発行日 2021年12 月

発行者 黒崎敏男 (OB会会長・22 期)

e-mail (PC) ichie@bronze.ocn.ne.jp

OB会事務局 〒920-1154 金沢市太陽が丘3-133 仲村正一 (24 期)

TEL 080-3741-0568

e-mail (PC) jobvisionmap@icloud.com

OB会ホームページ <http://www.kuwv.net> 管理人/奥名 正啓 (15期)

OB会費払込口座 (口座名義：金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会)

郵便局（振替） 00780-3-14120

ゆうちょ銀行（送金） ○七九支店 当座預金 No. 0014120

北國銀行 本店 普通預金 No. 223703

《事務局から》

◇住所が変わられた方は、お手数でも会長黒崎 (ichie@bronze.ocn.ne.jp) 又は事務局仲村 (jobvisionmap@icloud.com) までお知らせいただければ幸いです。

また、各期で幹事（代表）、事務部長（連絡窓口）などのとりまとめをしている OB の方から同期を代表して通知していただければ尚ありがたいです。

◇原稿を投稿してみたいと思われる方はいつでも原稿を受け付けていますのでメールでOB会長まで送っていただければ幸いです。

森のうた

一、キミは覚えているかい？

雨上がりの森のにおい

氷りだす月

オレンジに染まる谷 くだったこと

ボクは ほしい

雲のように

変わりつづけるころ

二、ボクは持っているかな？

峰の奥の空の深さ

鳥の孤独

あの山でキミがつぶやいた言葉

ボクは ほしい

オオシラビソの

立ちつくす激しさを

三、キミは知っているかい？

にこ毛そよぐブナの森を

山靴の夢

倉谷のタムシバの花の白さ

ボクはほしい

カタクリの

日なたに躍る気持ち